

「場 = 空間 (Space)」の視点から
見る移住者のライフ

八木真奈美

言語文化教育研究学会例会

2020.11.7



本話題提供では

「場は多様に解釈可能である」という前提のもと

「場 = 空間 (Space) 」と考え、

そこから、何がみえるのか??を

本日の例会という「場」への話題提供としたい

自己紹介を兼ねて

これまでの研究

- ・ 研究：日本に移住されてきた方の日本語を使った生活
ミクロの事象からマクロの社会をみる（八木,2018など）
- ・ キーワード：社会的文脈
- ・ 方法論：エスノグラフィー、ナラティブリサーチなど質的研究

本話題提供では

日本在住20年以上のAさん、ナラティブリサーチ

中国ご出身で、留学生として来日。

その後日本人の方と結婚。

中国語の講師や小学校に派遣されるサポーターなど。

本話題提供では

「私、日本に溶け込んでいる、ふうが楽しいから。」



溶け込んでいる



ふう

本話題提供では

- Aさんのケース：社会的文脈という観点から分析（八木,2015）

Aさんは、戦略的に言語や文化の「異なる文脈を移動」

（Pavlenko,2002）

- 本話題提供

「場」という概念を用いることによる「解釈の更新」（西村,2020）

Aさんのケース 日本に関わる語り

家の中は確かに
日本のスタイル、
日本人の、伝統
的の。

私は努力して。日
本のスタイル、た
とえば。七五三の
ときは七五三。

お正月全部、日
本のスタイル、
おせち作って。

おはしは、お正
月用の、全部用
意して。

Aさんのケース 中国に関わる語り

大学院で日本史を専攻するのは中国帰るため。

向こうの習慣とか、たとえば中国行ったとき気がつかないこと。

今、日本にいるから。（中略）もう一回、自分の国に文化探しに行く。

日本人にも紹介できるように、常に頭ん中ないと駄目かなと思うんですよ。

Aさんのケース

「ふうが楽しい」

内部にいる外部者の視点

「文化を探しに行く」

外部にいる内部者の視点



Aさんのケース

「私、日本に溶け込んでいる、**ふうが楽しい**から。」

自分自身はもう、日本のことを取り入れるだけじゃなくて、
自分が中国のこともちゃんと。身につけないと。**同化されたら
何も意味ない。**



溶け込んでる

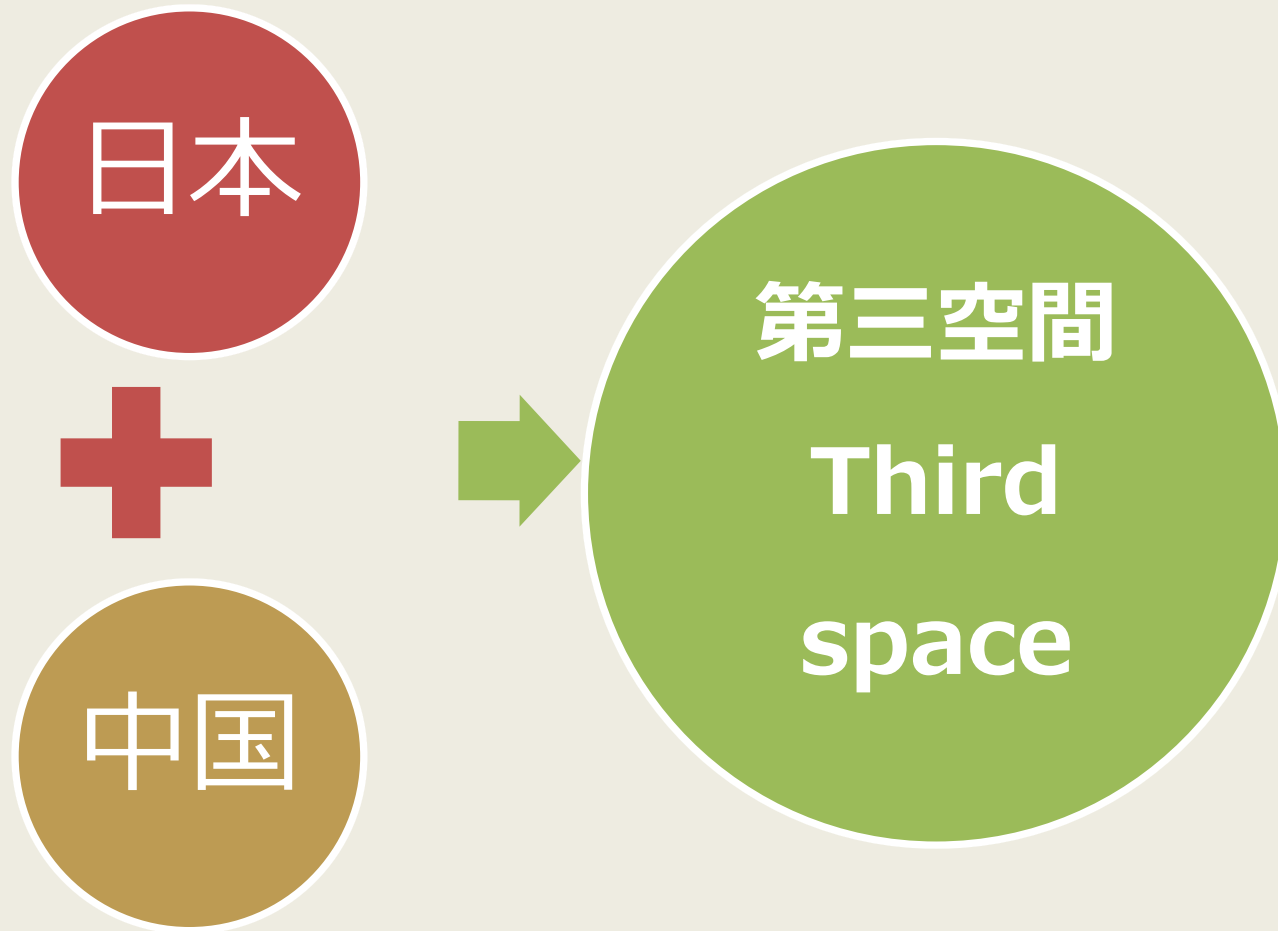


ふうが楽しい



同化されない

Aさんのケース



- ・「周辺のないし周縁化された位置取りから生じる、支配的な秩序に対する**抵抗**の空間が発生するための領域」

- ・「生きられる空間」

(ソジャ,2005)

とりあえずの結論

「場 = 空間 (Space) 」と考えたとき、そこから何がみえるのか？

- 時間
 - ┌ 時計の時間 (clock time)
 - └ 「内的に体験される質的な時間 (門中,1993) 」
物語によって構築される時間
- 空間
 - ┌ 地理的空間 (place)
 - └ 「内的に体験される質的な空間」

「場」は自己の生成？ 関係的ではあるけれども。

参考文献

西村ユミ（2020）「解釈的現象学」日本質的心理学会第17回大会公開シンポジウム資料

門中正一郎（1993）「生きられる時間／語られる時間」ソシオロジ37-3, 27-35.

八木真奈美（2015）「日本語学習者から日本語ユーザーへ」第19回AJEシンポジウム予稿集

八木真奈美（2018）「移住者の語りに見られる『経験の移動』が示唆するもの—Agencyという観点から」川上郁雄・三宅和子・岩崎典子『移動とことば』くろしお出版 (pp.171-189).

ソジャ,W.エドワード（2005）加藤政洋訳『第三空間—ポストモダンの空間論的転回』青土社

Pavlenko, A. (2002). Poststructuralist approaches to the study of social factors in second language learning and use. In V. Cook (Ed.), *Portrait of the L2 Users*. (pp. 277-302). Clevedon: Multilingual Matters.

ご清聴、ありがとうございました。